

学外連携セミナー：ポルト大学研修

ハイブリッド医療人養成コース 工学系大学院生 3年 吉田 衣里

学外連携セミナーを通して経験させていただける海外研修は、私がこの医工連携プログラムを選択した大きな理由の一つであり、とても楽しみにしていた。過去における外国の方との交流経験から、他国の方は基本的・習慣的な考え方や物の見方・着眼点が我々日本人と異なることを感じていたため、そのような方々と研究者として各々の意見や考えを発言し合い、議論し考察を深めてみたいという憧れを、修士学生の頃から抱いていたためである。しかし大きな不安は、コミュニケーション能力・研究力・研究テーマの相性が主にあった。英語力に関しては、研修先が決定する前から、いつ渡航が決まっても困らないように主に英会話を日々トレーニングした。研究力は自身の過去と現在の積み重ねを信じるしかない。そしてテーマの相性に関しては、最終的には受け入れ先の意向次第ということになる。

ただ自分ができることを行っていた時、思いがけない機会と巡り合った。日本で開催される若手女性研究者向けの国際シンポジウムへの参加を誘われ、そこで私の研究テーマについてもイントロや目的だけ紹介させていただいた。その際、シンポジウムに偶然参加されていたポルトガル・ポルト大学の教授から、ぜひとも共同研究をしてみないか、というお話をいただいたのだ。本当に信じられなかった。練習していた英会話のお陰で、何とか今後の予定についても話をする事ができ、最終的には長崎大学の先生方からも承諾を得られ、渡航できることになった。

現地では、ポルト大学が外部の大学・研究機関とも連携して立ち上げた 1000 人以上の研究者・技術者が在籍する i3s 研究所 (Institute on Research and Innovation in Health from University of Porto) において、その 3 大グループの 1 つである INEB (Institute of Biomedical Engineering) のメンバーとして、半年間、研究させていただいた。私の所属研究室である Biocomposites (生体複合材料) 研究室は、工学・理学・医歯薬学など本来の専門が異なる広い分野から集まった博士学生・ポスドクが多く在籍し、材料工学・細胞検討を専門とする教授たちと共に、微生物学の知識も豊富なメンバーが揃っている。私のような他大学や他の国から来る研修生も多く、私の目的を達成するためには最高の環境であった。比較的新しい研究施設だが、ヨーロッパの中でもトップに加えられる研究機関らしく、私の在籍の間にも他国の重鎮やスペイン国王などが共同研究会談や視察に来られていた。

このように研究環境は然ることながら、私が更にポルトガルを非常に好きになった理由は、ポルトガル人がとにかく優しく・温かく友好的であることだ。困ったときには知らない人でも声を掛け合い助け合う。とにかく物事を明るく前向きに捉えるようにする。そして食事やワインもとてもおいしく、コーヒーは本場の濃いエスプレッソとすごく甘いパン

菓子。私が滞在したポルト大学の国際寮では、アフリカや南アメリカ・イランから来られた研究者が多く、日本では交流できないような人たちと喋り、料理を作り、文化や習慣の違いを話したりジョークを言ったり、励まし合ったりする。旅行や現地のイベントに行けば、そこでさらに一般の（研究関係者でない）イギリス人やフランス人・ペルー人などとも出会い、交流できた。

自分の人生にこのような素晴らしい体験が起こるとは思ってもいなかった、まさに奇跡のような 6 カ月だった。日本のような島国で、外国の方と話をすることは、世界の事を考える上でも非常に大切なことだと思う。そして外国に行ったからこそ、日本がどう見られ、どういう国だと思われているのか、日本独特の文化や守りたい習慣・変えたい習慣は何なのかを、他者が書いた文章や言葉からでなく自身の実感として納得し、思い直すことができる。学んでくること・感じることは人それぞれだと思うが、私としてはとても掛け替えのない経験をさせて頂いたことに感謝しており、今後活かしていきたい。